

岡山県感染症週報

2011 年 第 26 週（6 月 27 日～ 7 月 3 日）

岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中！（6 月 23 日発令）

◆2011 年 第 26 週（6/27～7/3）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

- 第 24 週 2 類感染症 結核 3 名（40 代 男 1 名、70 代 男 1 名、90 代 女 1 名）
 第 25 週 2 類感染症 結核 7 名
 （30 代 女 3 名、40 代 男 1 名、60 代 男 1 名、女 1 名、80 代 男 1 名）
 5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名（20 代 男）
 第 26 週 2 類感染症 結核 2 名（80 代 男 1 名、90 代 女 1 名）
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名（O103 中学生 男）の報告がありました。

■定点把握感染症の発生状況

- 手足口病は再び増加に転じ、定点あたり患者数は今期最高、また過去 10 年で最も多い発生になりました。県内全域で発生が非常に多い状態が続いています。
 岡山県は注意喚起を行い、感染予防と早めの受診を呼びかけています。
 ○ヘルパンギーナは今週も増加し、感染症発生レベル 3 の地域も見られました。
 ○咽頭結膜熱は定点あたり患者数が、先週の 2 倍に増えました。

■【速報】第 27 週 腸管出血性大腸菌感染症 2 名（O157 幼児 男、O103 10 代 男）の発生がありました。

1. 腸管出血性大腸菌感染症の発生が 6 月から増加しています。今年 7 月 8 日現在まで 25 名と例年に比べ発生は少ないものの、第 23 週から 4 週連続で発生の報告がありました。岡山県では腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令し、感染予防を呼びかけています。県内の発生状況、症状、感染予防などについては感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。なお『全数把握感染症患者発生状況』の表への記載は第 28 週以降になります。
2. 手足口病の定点あたり患者報告数は、先週の減少から今週は再び増加に転じ（8.67 → 10.61 人）、今期最高、また過去 10 年で最も多い発生になりました。県内全域で、大きな流行が発生または継続しつつあると考えられる感染症発生レベル 3 の状態が続いています。
 手足口病の詳しい症状、予防については、感染症情報センターホームページ『[【注意!】手足口病が流行しています!】](#)』をご覧ください。
3. ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数は今週も増加し（2.57 → 3.24 人）、岡山市では感染症発生レベル 3 になりました。
4. 咽頭結膜熱の定点あたり患者報告数が前週の 2 倍に増えました（0.20 → 0.48 人）。
 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の今週の動向については、『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
5. 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の定点あたり患者報告数が 23 週から 3 週つづけて増加しました。
 流行性耳下腺炎による学級閉鎖が、備中地域で 1 校ありました。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	⬆	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★★
手足口病	⬆	★★★★★	伝染性紅斑	⬆	★
突発性発疹	➡	★★	百日咳	➡	★
ヘルパンギーナ	⬆	★★★	流行性耳下腺炎	➡	★★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	⬆	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	⬇	★	クラミジア肺炎	➡	

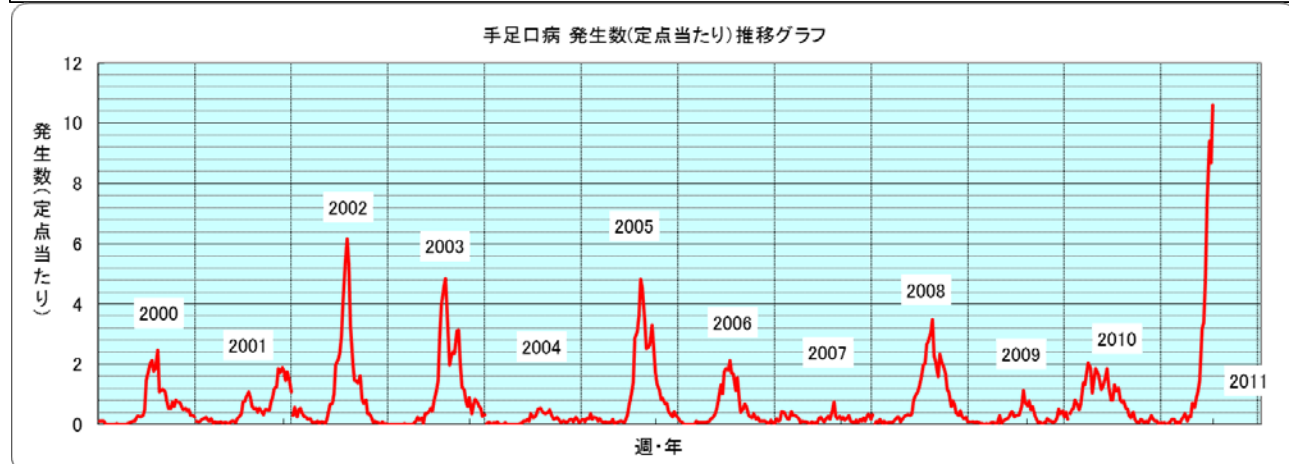
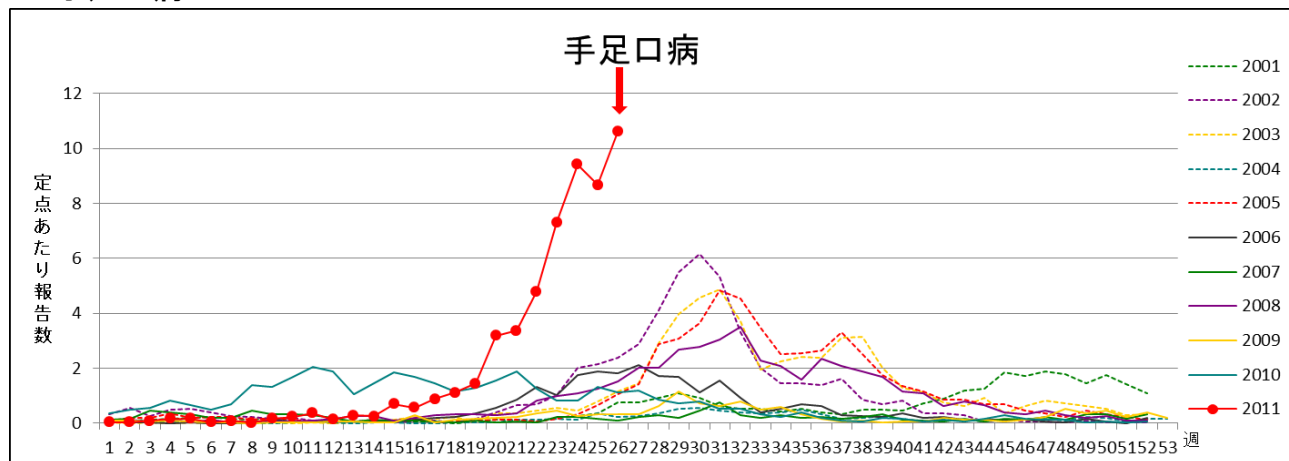
【記号の説明】

前週からの推移： ⬇ 2倍以上の減少 ⬆ 1.1~2倍未満の減少 ➡ 1.1未満の増減
 ⬆ 1.1~2倍未満の増加 ⬆ 2倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし ★僅か ★★少し ★★★やや多い ★★★★多い ★★★★★非常に多い
 ※定点当たり患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. 手足口病



手足口病の定点あたり患者報告数は、先週の減少から今週は再び増加に転じました（468→573人 定点あたり 8.67→10.61人）。

定点あたり患者数は、岡山市（10.00→13.64人）、倉敷市（12.00→12.91人）、備前地域（7.20→9.90人）、備中地域（5.71→7.86人）、備北地域（5.75→7.25人）、真庭地域（8.00→9.00人）、美作地域（7.50→6.50人）と、ほとんどの地域で患者数が増加し、感染症発生レベル3が県内全域で継続しています。患者は3歳以下に多く見られますが、学童以上での発生も増えています。手洗いを励行し、感染予防に努めましょう。

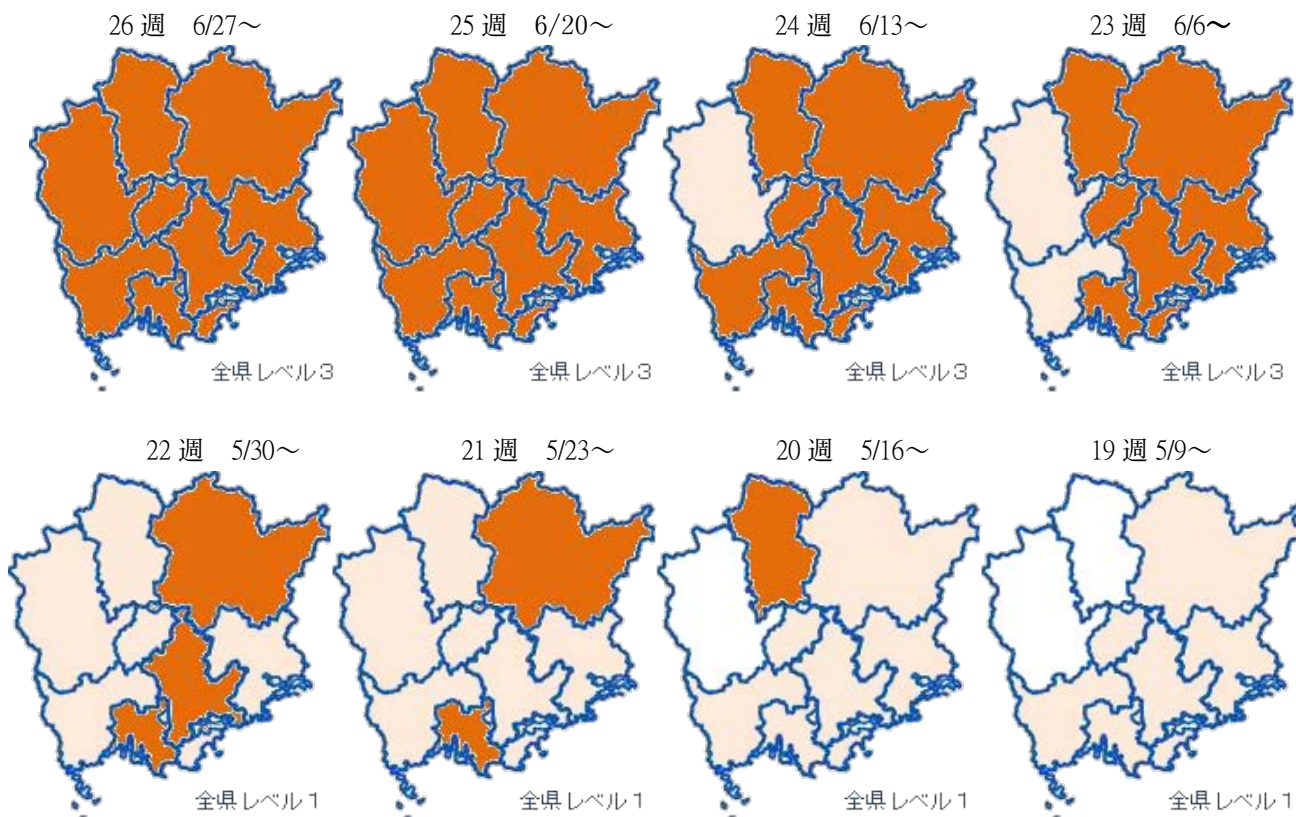
手足口病は、まれに髄膜炎や脳炎を合併することがありますが、岡山県ではこれまでのところ無菌性髄膜炎、脳炎いずれの報告もありません。



手足口病患者の咽頭拭い液10件（4月採取1件、5月採取2件、6月採取7件）からコクサッキーウイルス A6型が検出されました。手足口病の症状、感染予防など詳しいことについては、感染症情報センターホームページ『注意！手足口病が流行しています！』をご覧ください。

感染症マップ 手足口病 2011年26週

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
5	2		0 < 5未満	0

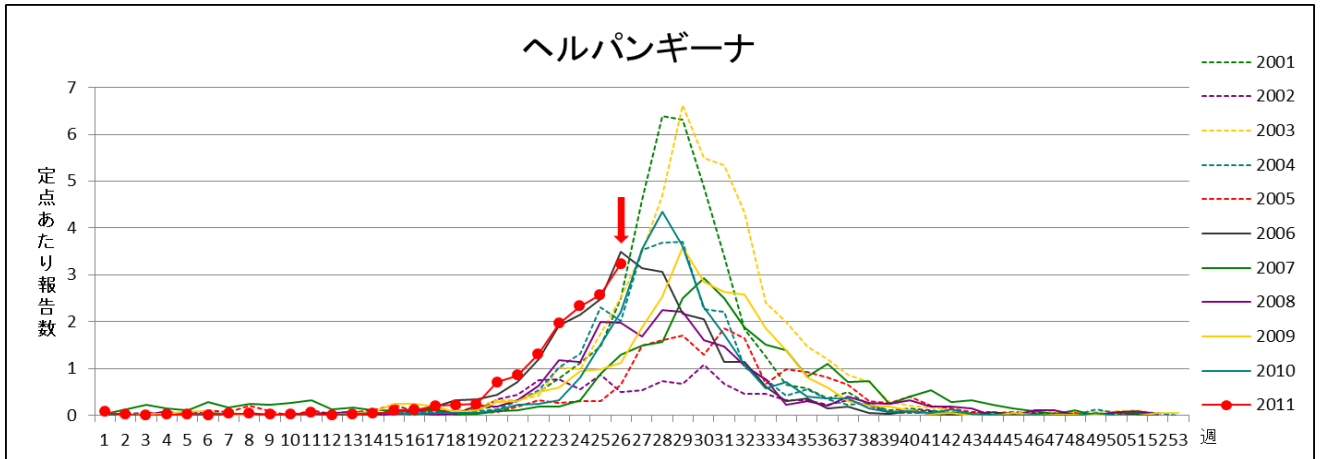


国立感染症研究所 感染症情報センター 週報第24週（全国版）によると、臨床現場からは、今年の手足口病は、発疹が従来の典型例と比べて大きく、また四肢末端に限らずに広範囲に認められる症例が目立つという報告が掲載されています。

【国立感染症研究所 感染症情報センター 感染症発生動向調査 週報第24週】

<http://idsc.nih.gov.jp/idwr/douko/2011d/24douko.html#chumoku1>

2. ヘルパンギーナ



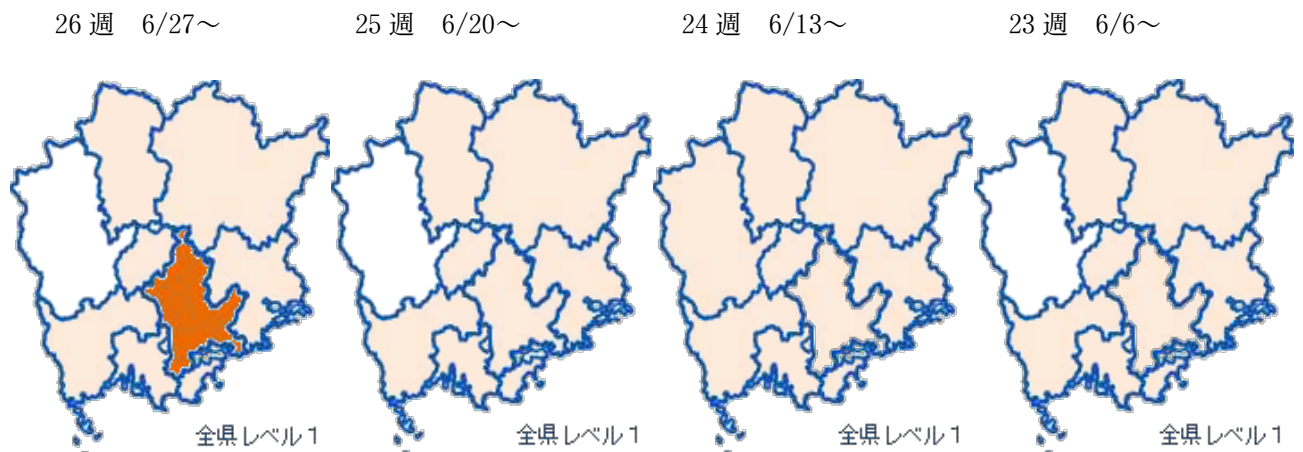
ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数が今週も増加しました（139 → 175人 定点あたり2.57 → 3.24人）。岡山市（4.64 → 6.43人）、倉敷市（3.00 → 4.27人）で発生が増え、岡山市では、感染症発生レベル3 になりました。

ヘルパンギーナは夏に流行する幼児の急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。例年、7月中旬に流行のピークがみられ、今後も発生の増加が考えられます。

患者の年齢は3歳以下の幼児が中心で、全体の60%を占めていますが、4～6歳での発生も増えていきますので注意が必要です。症状は、突然の発熱につづいて咽頭痛が出現し、口腔内に直径1～2mmの小水疱が出現するのが特徴です。口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、食べ物や水分の摂取ができにくくなり、脱水症につながる場合がありますので注意が必要です。

4月に採取・搬入されたヘルパンギーナ患者1名の咽頭拭い液から、**コクサッキーウイルス A6 型**が検出されました。

感染症マップ ヘルパンギーナ 2011年26週



ヘルパンギーナ

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
6	2		0 < 6未満	0

コクサッキーウイルス A6 型は、全国的には、これまでヘルパンギーナ患者から検出される例が多く報告されてきましたが、最近は、手足口病患者からの検出報告が増加しています。今年も、これまでのところ、手足口病患者からの検出報告が大部分を占めています。

詳しくは、国立感染症研究所 感染症情報センター 病原微生物検出情報 をご覧ください。

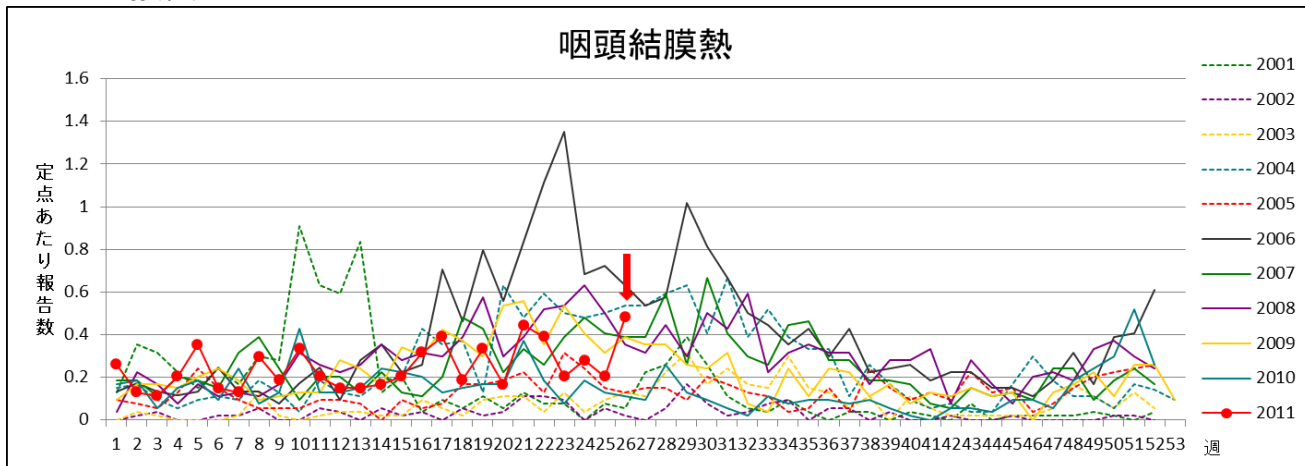
【国立感染症研究所 感染症情報センター 病原微生物検出情報】

今年のコクサッキーウイルスA6 型検出状況 <http://idsc.nih.gov/iasr/prompt/graph-tj.html>

2007-2011 の手足口病からの検出ウイルス <https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data37j.pdf>

2007-2011 のヘルパンギーナからの検出ウイルス <https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data38j.pdf>

3. 咽頭結膜熱



咽頭結膜熱の定点あたり患者報告数が増え（定点あたり0.20 → 0.48人）、特に岡山市（0.21 → 0.79人）、美作地域（0.67 → 1.83人）で発生が増えました。

咽頭結膜熱は、通常夏に小児を中心に流行し、プールでの感染も多く見られることから『プール熱』とも呼ばれます。

患者発生は6月頃から徐々に増加し始め、7～8月がピークになります。発熱、咽頭痛、結膜充血が主な症状で、感染経路は、飛沫感染・接触感染です。感染力が強く、患者が触れたタオルや手すりなどからも感染します。予防法としては、感染者との密接な接触を避ける、うがいや手洗い、手指の消毒を行う、プールでは水泳前後のシャワーを丁寧に行う、タオルの共用を避けるなど、感染予防を心がけましょう。

- 夏に流行する手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の発生が多くなっています。発生時期は例年より早く、患者数も多くなっています。
- 保育園、幼稚園などでは集団発生する可能性もあります。うがい・手洗いを励行し、おむつや便の取り扱いに注意して、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- 体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意して早めに医療機関を受診しましょう。

保健所別報告患者数 において **数字** は感染症マップにおいて レベル3
数字 は感染症マップにおいて レベル2 を示しています

保健所別報告患者数 2011年 26週 (2011/06/27～2011/07/03)

2011年7月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	2	0.04	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	26	0.48	11	0.79	1	0.09	-	-	1	0.14	2	0.50	-	-	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	0.52	5	0.36	12	1.09	3	0.30	4	0.57	-	-	-	-	4	0.67
感染性胃腸炎	243	4.50	37	2.64	44	4.00	80	8.00	21	3.00	16	4.00	3	1.50	42	7.00
水痘	61	1.13	19	1.36	15	1.36	16	1.60	4	0.57	1	0.25	3	1.50	3	0.50
手足口病	573	10.61	191	13.64	142	12.91	99	9.90	55	7.86	29	7.25	18	9.00	39	6.50
伝染性紅斑	15	0.28	8	0.57	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	4	0.67
突発性発疹	25	0.46	13	0.93	4	0.36	-	-	2	0.29	2	0.50	-	-	4	0.67
百日咳	2	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	175	3.24	90	6.43	47	4.27	13	1.30	11	1.57	-	-	1	0.50	13	2.17
流行性耳下腺炎	84	1.56	19	1.36	24	2.18	15	1.50	19	2.71	3	0.75	2	1.00	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 26週 (2011/06/27～2011/07/03)

2011年7月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	26	0.48	11	0.79	1	0.09	-	-	1	0.14	2	0.50	-	-	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	0.52	5	0.36	12	1.09	3	0.30	4	0.57	-	-	-	-	4	0.67
感染性胃腸炎	243	4.50	37	2.64	44	4.00	80	8.00	21	3.00	16	4.00	3	1.50	42	7.00
水痘	61	1.13	19	1.36	15	1.36	16	1.60	4	0.57	1	0.25	3	1.50	3	0.50
手足口病	573	10.61	191	13.64	142	12.91	99	9.90	55	7.86	29	7.25	18	9.00	39	6.50
伝染性紅斑	15	0.28	8	0.57	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	4	0.67
百日咳	2	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	175	3.24	90	6.43	47	4.27	13	1.30	11	1.57	-	-	1	0.50	13	2.17
流行性耳下腺炎	84	1.56	19	1.36	24	2.18	15	1.50	19	2.71	3	0.75	2	1.00	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2011年 第26週 2011/06/27～2011/07/03)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

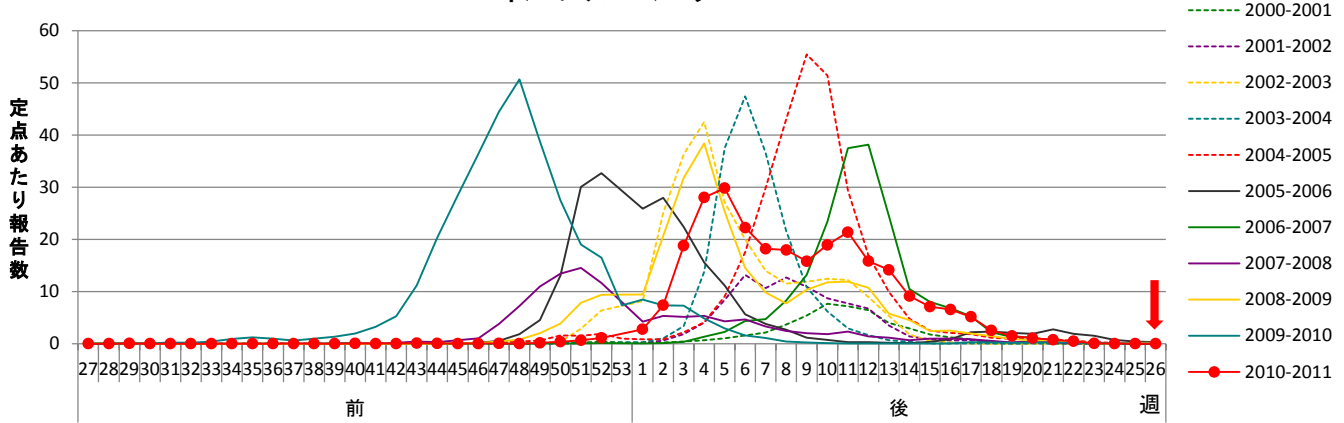
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	26	-	4	5	4	1	6	2	1	-	-	-	2	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	-	1	1	5	4	1	2	2	1	3	3	5	-	-
感染性胃腸炎	243	1	16	30	27	23	28	14	15	19	5	9	32	5	19
水痘	61	2	7	12	11	9	6	3	3	-	1	4	3	-	-
手足口病	573	5	66	128	110	75	67	43	27	15	11	7	10	1	8
伝染性紅斑	15	-	1	1	1	1	3	2	5	-	1	-	-	-	-
突発性発疹	25	1	16	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	175	2	17	36	30	25	18	14	11	9	5	3	4	-	1
流行性耳下腺炎	84	-	2	8	10	8	11	4	11	6	10	6	5	1	2

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	-

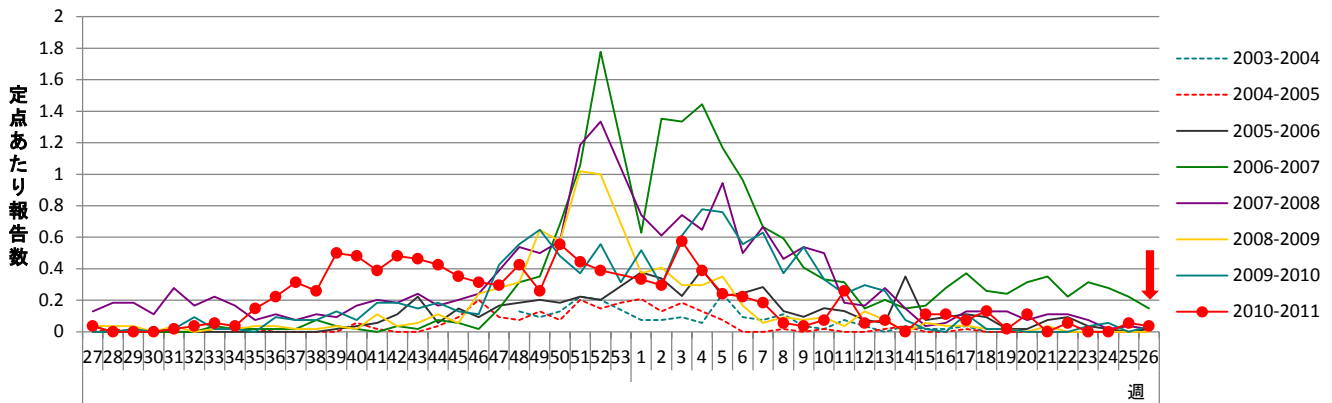
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

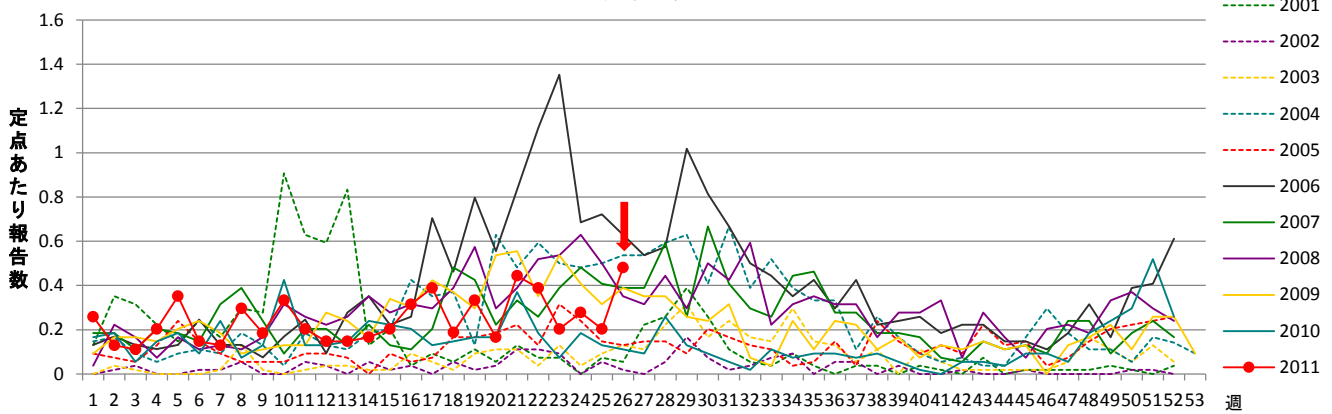
インフルエンザ



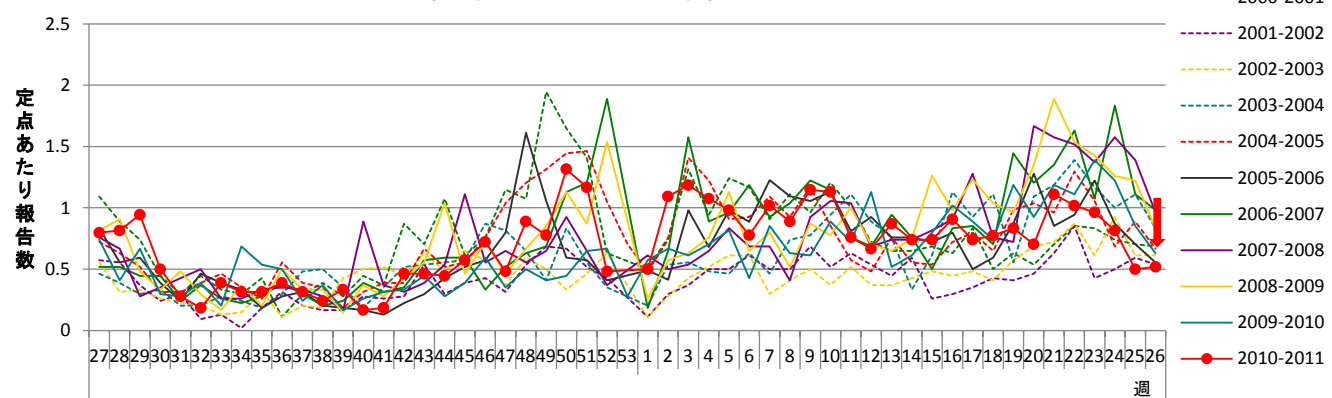
RSウイルス感染症



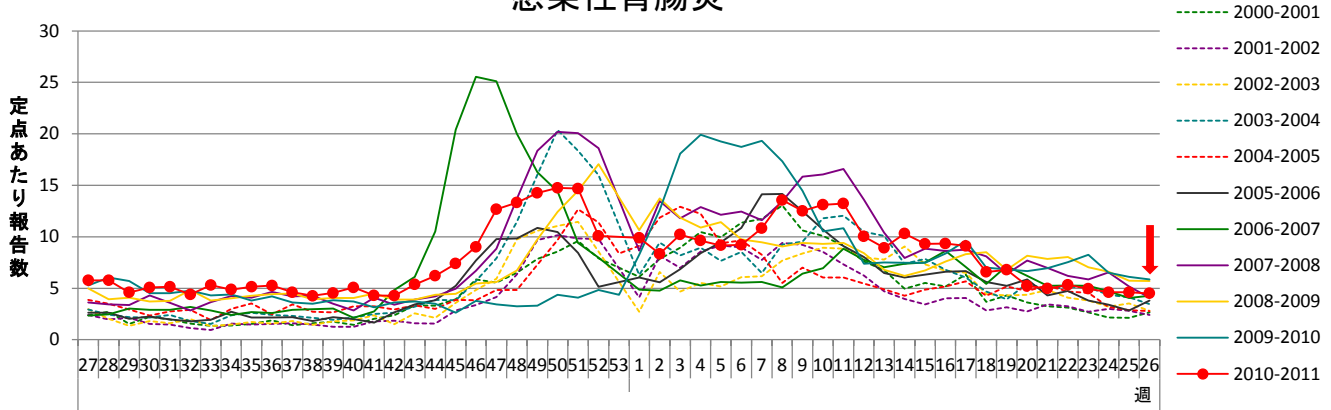
咽頭結膜熱



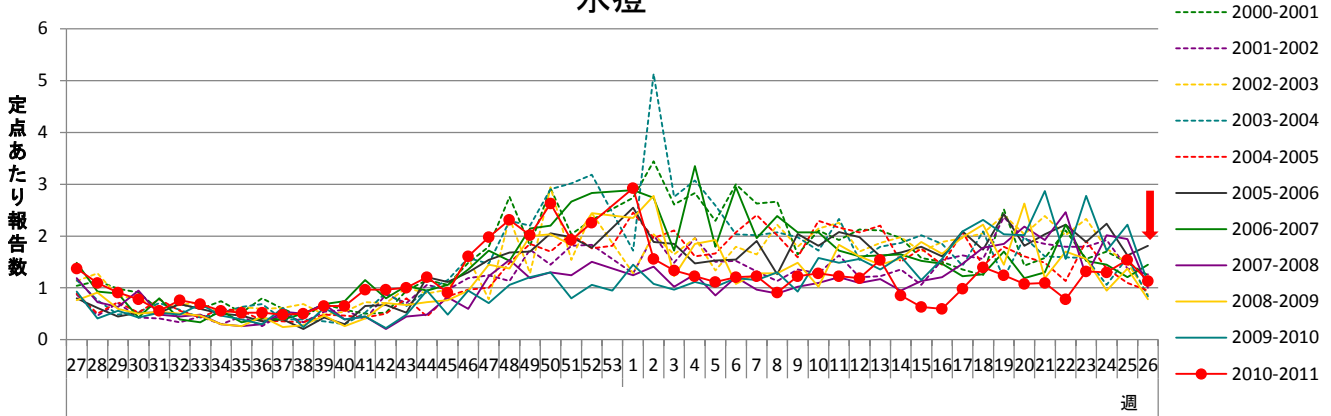
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



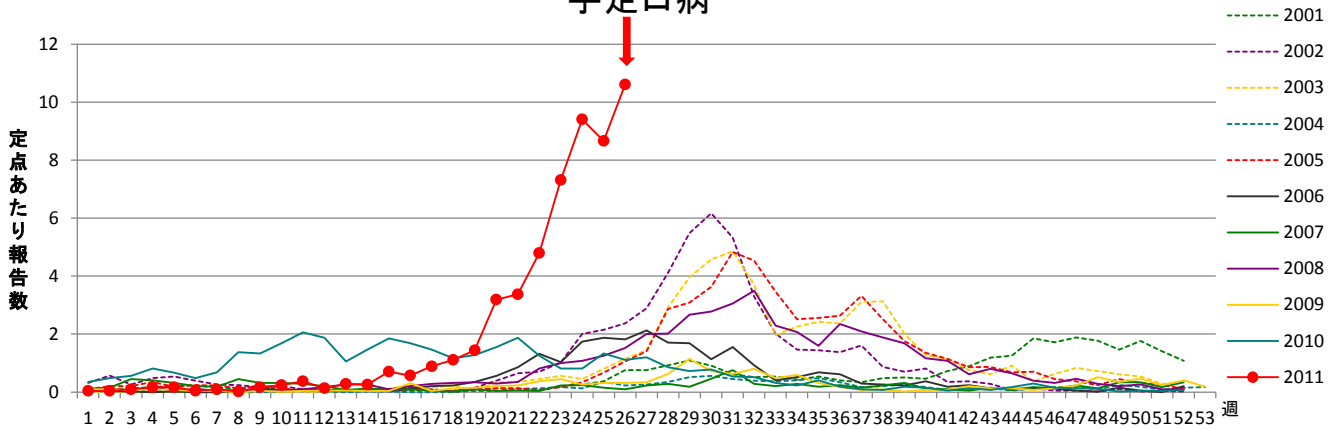
感染性胃腸炎



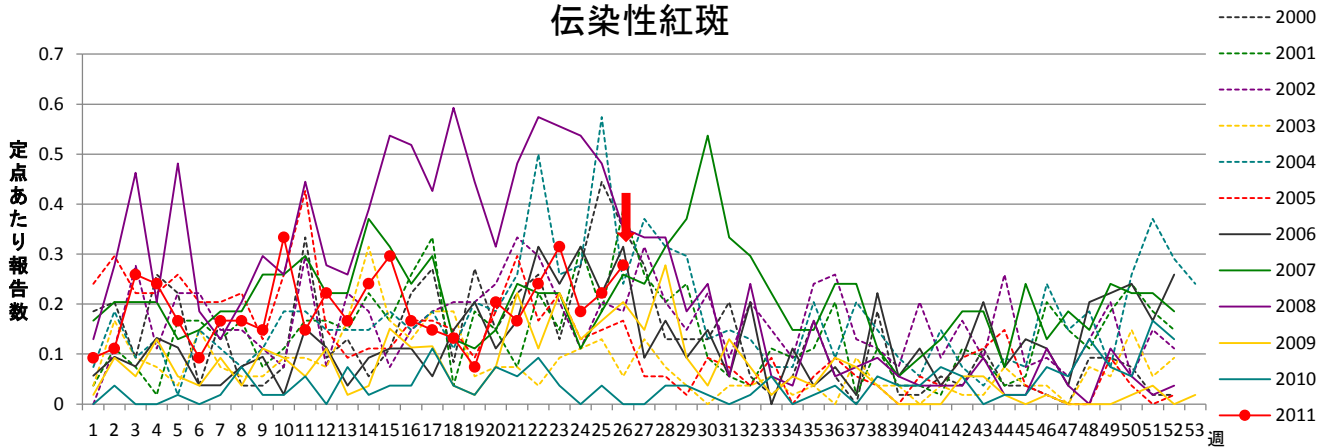
水痘



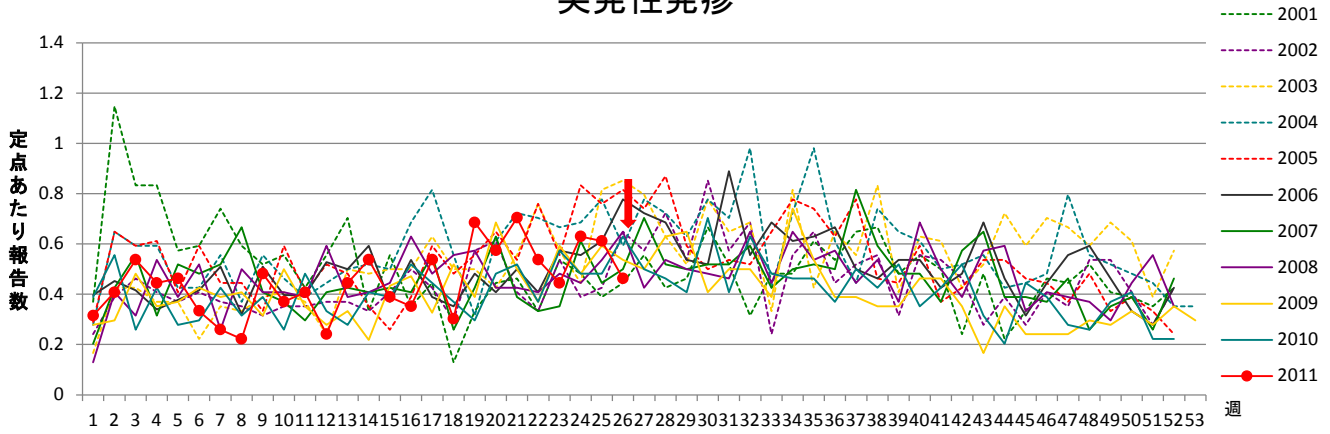
手足口病



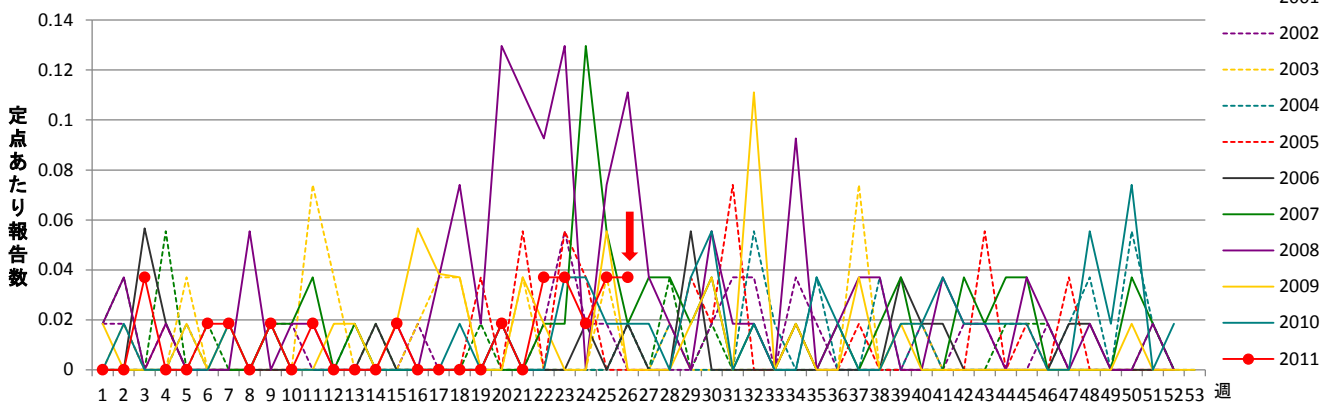
伝染性紅斑



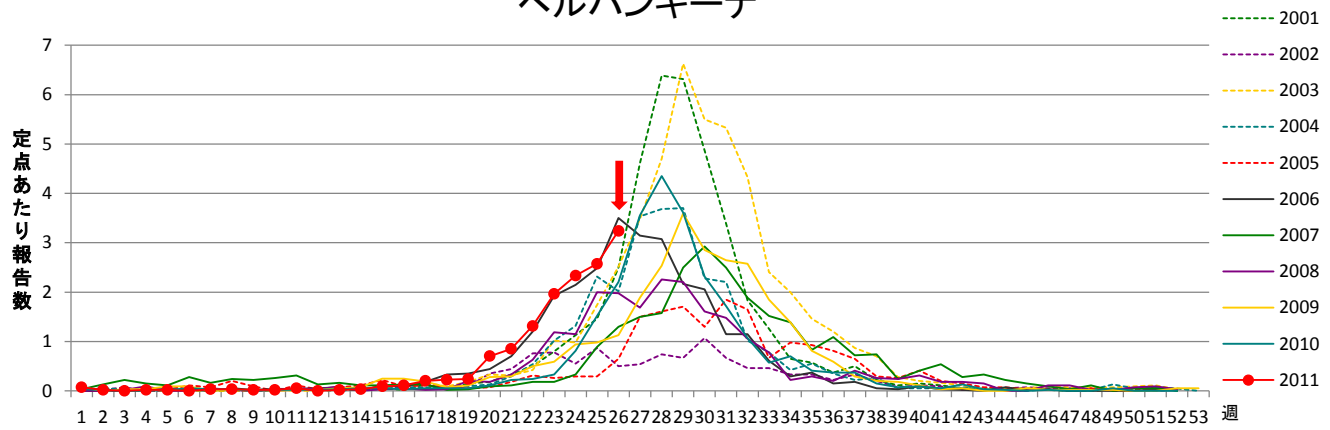
突発性発疹



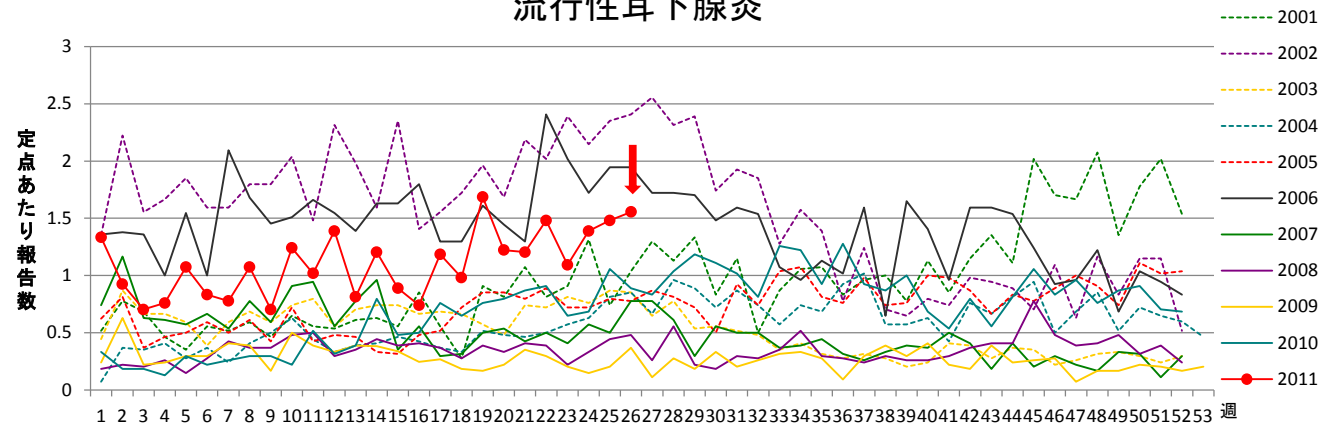
百日咳



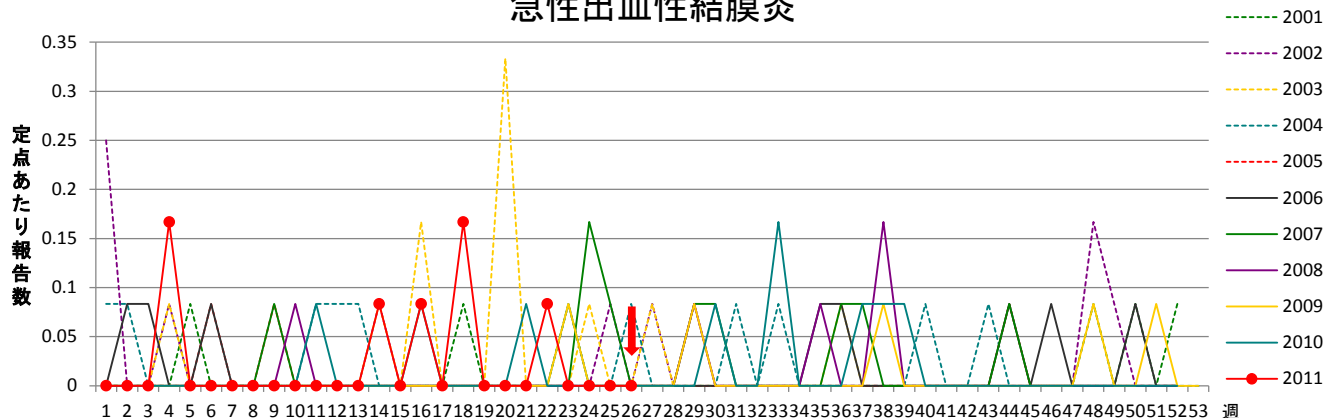
ヘルパンギーナ



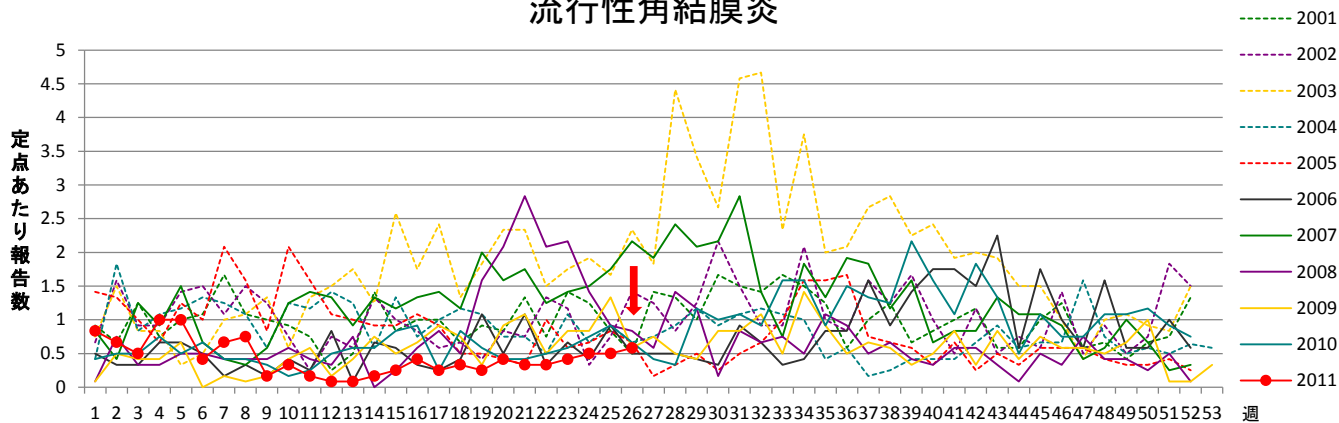
流行性耳下腺炎



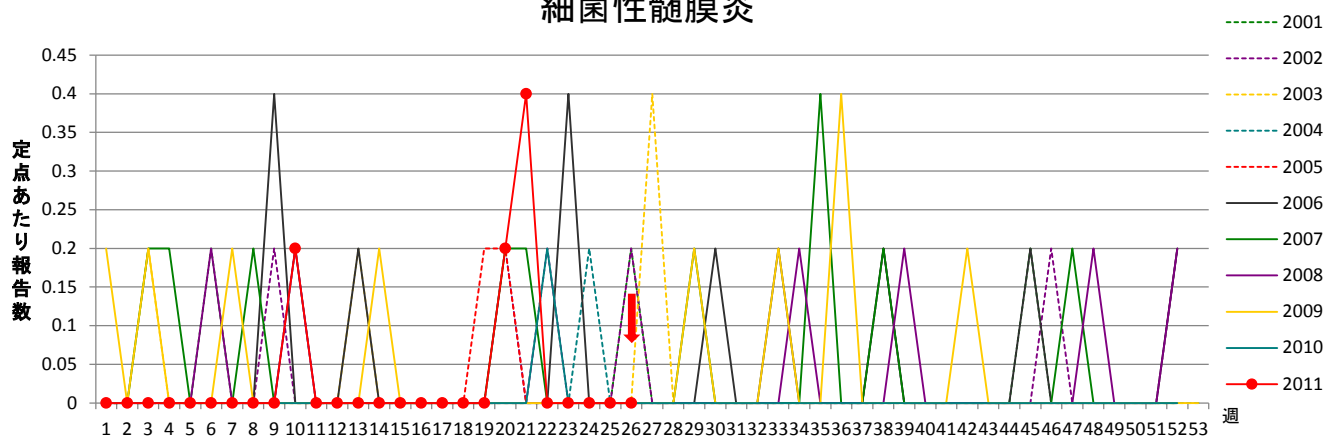
急性出血性結膜炎



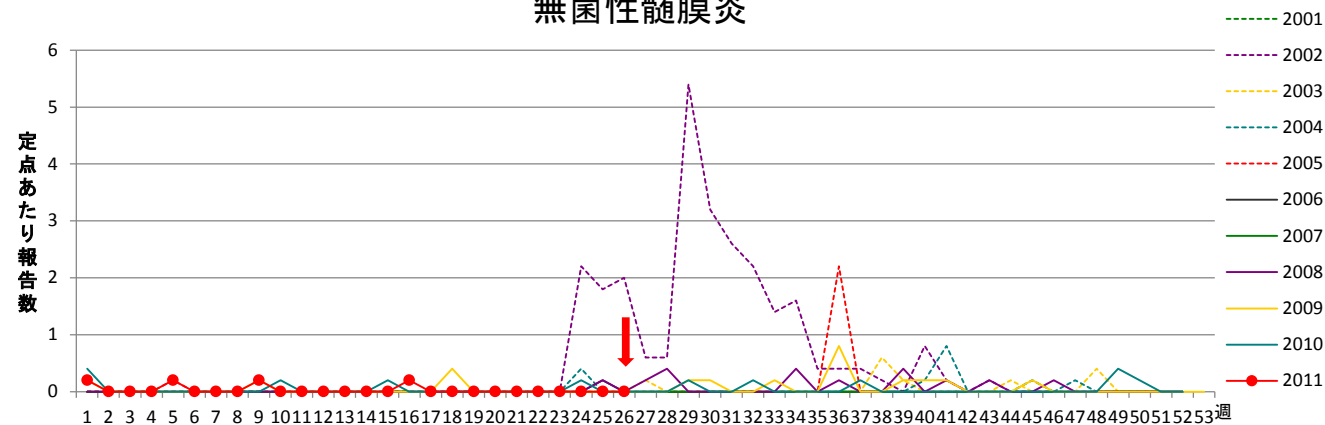
流行性角結膜炎



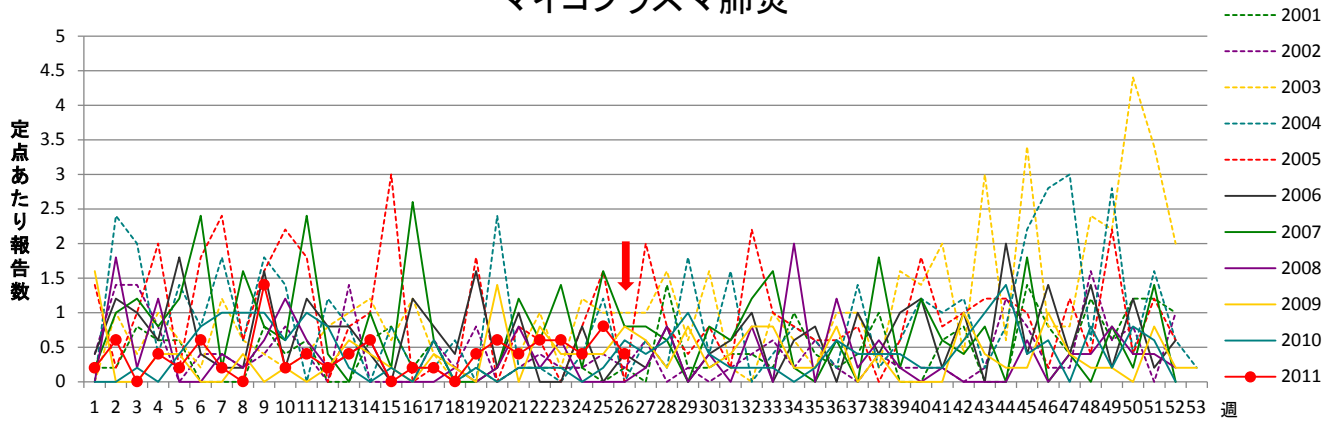
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

